

「社会的養護経験者 185 人の生活と声アンケート」結果（保護者票分）

（1）回答者（保護者）と子どもについて

⑧ 給付金を受け取った子どもの世代

子どもの年齢世代（n=24）		割合
小学生（7歳～12歳）	7	29.2%
中学生（13歳～15歳）	8	33.3%
中学卒業以上（16歳～18歳）	9	37.5%
無回答	0	0.0%
合計	24	100.0%

給付金を受け取った子どもの年齢をうかがいし、小学生の世代は7人(29.2%)、中学生の世代は8人(33.3%)、中学卒業以上の世代は9人(37.5%)でした。回答者の子どもに19歳以上の人はいませんでした。

⑨ いつ頃、家庭復帰をしたか（施設・里親を退所した年）

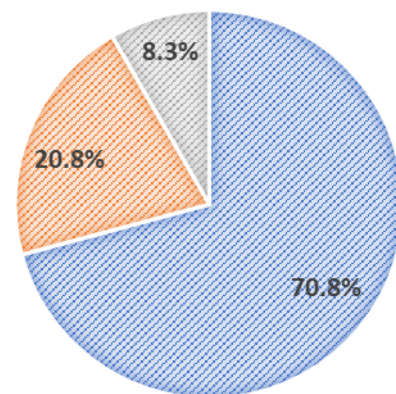
いつ頃、家庭に戻ったか（n=24）		割合
2016年	0	0.0%
2017年	1	4.2%
2018年	1	4.2%
2019年	4	16.7%
2020年	5	20.8%
2021年	12	50.0%
無回答	1	4.2%
合計	24	100.0%

給付金を受け取った子どもの家庭復帰をした時期をうかがい、半数(50.0%)は2021年に復帰をした家庭という結果でした。母数は限られていますが、家庭復帰から年数が経つに連れ回答数が少なくなる傾向が読み取れます。

⑩ 子どもとの関係性

子どもとの続き柄（n=24）		割合
母親	17	70.8%
父親	5	20.8%
親戚・祖父母	2	8.3%
兄弟・姉妹	0	0.0%
その他	0	0.0%
無回答	0	0.0%
合計	24	100.0%

■ 母親 ■ 父親 ■ 親戚・祖父母



保護者と子どもとの関係性について、続き柄は17人が「母親」(70.8%)、5人が「父親」(20.8%)、2人が「親戚・祖父母」(8.3%)の回答でした。回答者に「兄弟・姉妹」と回答したはいませんでした。

⑪ 保護者の年齢

保護者の年齢 (n=24)		割合
20代 (20歳～29歳)	1	4.2%
30代 (30歳～39歳)	6	25.0%
40代 (40歳～49歳)	9	37.5%
50代 (50歳～59歳)	6	25.0%
60代以上 (60歳以上)	1	4.2%
無回答	1	4.2%
合計	24	100.0%

保護者の年齢で最も多かったのは40代でした(9人・37.5%)。

最も低い年齢は27歳(現在、子どもが小学生の保護者)、最も高い年齢は70歳(現在、子どもが高校生の親戚・祖父母)でした。年齢の平均値・中央値はともに45歳という結果でした。

⑫ いつ頃、給付金のことを知ったか

いつ頃、給付金のことを知ったか (n=24)		割合
申し込む前から知っていた	4	16.7%
施設職員・里親・子ども本人が申し込んだあとに知った	7	29.2%
給付金をもらってから知った	4	16.7%
このアンケートが届いてから知った	8	33.3%
無回答	1	4.2%
合計	24	100.0%

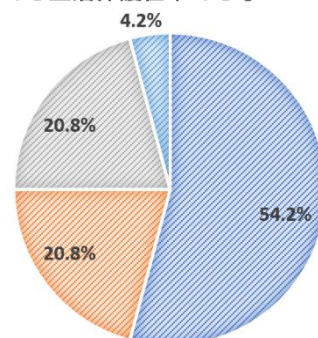
最も多い回答は「このアンケートが届いてから知った」(33.3%)で、次に多い回答は「施設職員・里親・子ども本人が申し込んだあとに知った」(29.2%)でした。半数の保護者は送金後(家庭復帰したあと)以降に給付金について知り、アンケートを送付した時にも、どういう団体や給付金なのかの問い合わせが少なくありませんでした。給付金の仮決定後、措置解除後のご住所を控える際に支援情報やアンケートをお送りする可能性があることを通知文でお知らせしていましたが、さらにつながりを継続する手立ての必要性が感じられる結果となりました。

(2) 復帰した家庭の状況について

① 現在の家庭状況

現在の家庭状況 (n=24)		割合
住民税(所得割)非課税世帯	13	54.2%
生活保護世帯	5	20.8%
非課税世帯でも生活保護世帯でもない	5	20.8%
分からない	0	0.0%
無回答	1	4.2%
合計	24	100.0%

■ 住民税(所得割)非課税世帯 ■ 生活保護世帯
■ 非課税世帯でも生活保護世帯でもない ■ 無回答



回答者のうち4世帯中3世帯(75.0%)は「住民税(所得割)非課税世帯」、「生活保護世帯」と回答しました。円満な形での家庭復帰だけではなく、家庭に戻ったあとも経済的に厳しい状態で生活を送る可能性があることを改めて感じられる結果となりました。

世帯構成についてもうかがい、3世帯中2世帯（66.7%）は「ひとり親家庭（母子家庭、父子家庭）」と回答しました。「その他」は、「祖父母、兄」、「離婚予定」があげられました。

また、世帯人数の平均値は3.8人で中央値は4人という結果でした。子どもの人数の平均値は2.2人で中央値は2人という結果でした。

現在の家庭状況（n=24）		割合
ひとり親家庭（母子家庭、父子家庭）	16	66.7%
両親のいる家庭	6	25.0%
その他	2	8.3%
無回答	0	0.0%
合計	24	100.0%

世帯人数（平均値）	3.8
世帯人数（中央値）	4
子どもの人数（平均値）	2.2
子どもの人数（中央値）	2

※世帯人数、子どもの人数は日頃の生活費を一緒にする人（仕送り含む）、寮など一時的に違う場所に居住する人、別居でも扶養関係の人など生計が同じ家族の人数

② 世帯の年収

回答していただいた仕事の年収やもらっている手当を基に、あすのば入学・新生活応援給付金の住民税非課税・生活保護世帯と同じ形式で世帯の年収金額を算出しました。算出結果は、無回答や不備のある回答を除く14世帯のものです。また、お仕事の年収金額は2020年の税込年収です。

まず、世帯の勤労年収平均値は2,387,454円で中央値は2,339,200円という結果でした。10世帯（71.4%）はお仕事で得られた年収が300万円未満でした。

世帯の勤労年収（n=14）		割合
0円	2	14.3%
100万円未満	2	14.3%
100万円～200万円未満	2	14.3%
200万円～300万円未満	4	28.6%
300万円以上	4	28.6%
合計	14	100.0%

世帯の勤労年収（平均値）	2,387,454
世帯の勤労年収（中央値）	2,339,200

続いて、生活保護費や児童手当、児童扶養手当、遺族・障害年金などの手当や養育費を含めた世帯年収を計算しました。その結果、世帯年収平均値は3,363,375円で中央値は3,099,200円という結果でした。6世帯（42.9%）は手当など含めた世帯年収が300万円未満でした。

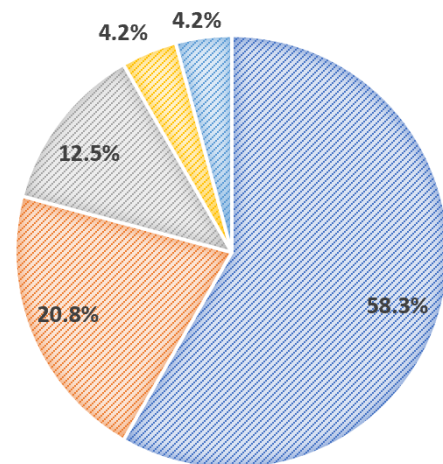
手当など含めた世帯の年収（n=14）		割合
100万円未満	1	7.1%
100万円～200万円未満	3	21.4%
200万円～300万円未満	2	14.3%
300万円以上	8	57.1%
合計	14	100.0%

手当など含めた世帯の年収（平均値）	3,363,375
手当など含めた世帯の年収（中央値）	3,099,200

なお、年度の申込者数により異なりますが、住民税非課税・生活保護世帯の選考基準では7世帯が採用の基準内で、住民税非課税・生活保護世帯と回答した世帯に限ると、77.8%が基準内でした。

③現在の住まいと家賃・ローン

現在、どのようなところに住んでいるか (n=24)		割合
民間賃貸住宅 (マンション・アパートなど)	14	58.3%
公的賃貸住宅 (公団・県営・市営住宅など)	5	20.8%
持ち家 (戸建て・マンション) など	3	12.5%
その他	1	4.2%
無回答	1	4.2%
合計	24	100.0%



- 民間賃貸住宅 (マンション・アパートなど)
- 公的賃貸住宅 (公団・県営・市営住宅など)
- 持ち家 (戸建て・マンション) など
- その他
- 無回答

現在、どのようなところに住んでいるかについてうかがい、「民間賃貸住宅 (マンション・アパートなど)」(58.3%)の割合が最も多く、次に「公的賃貸住宅 (公団・県営・市営住宅など)」(20.8%)の割合が多い結果でした。「その他」には「実家」があげられました。

また、毎月支払う家賃・ローンについてもうかがい、平均値は 63,261 円で中央値は 60,000 円という結果でした。

(3) 施設・里親とのつながり、利用した支援

①子どもが生活していた施設・里親とのつながり

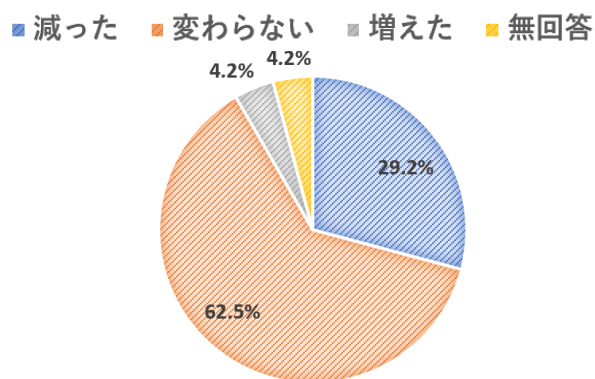
子どもが生活していた施設・里親の種類 (n=24)		割合
児童養護施設	17	70.8%
児童自立支援施設	4	16.7%
児童心理治療施設	2	8.3%
里親	1	4.2%
無回答	0	0.0%
合計	24	100.0%

児童養護施設が 17 人 (70.8%)、児童自立支援施設が 4 人 (16.7%)、児童心理治療施設が 2 人 (8.3%)、里親が 1 人 (4.2%) の結果でした。設問していたファミリーホーム、自立援助ホームは回答者にいませんでした。

この一年間の施設・里親との連絡頻度 (n=24)		割合
週に1回以上	2	8.3%
月に1回以上	5	20.8%
2~3ヶ月に1回以上	6	25.0%
半年に1回以上	2	8.3%
1年間に1回程度	5	20.8%
1年間に1回もない	4	16.7%
無回答	0	0.0%
合計	24	100.0%

また、施設・里親との連絡頻度もうかがい、「2~3ヶ月に1回以上」(25.0%)が最も多く、次に「1年間に1回程度」(20.8%)が多い結果でした。措置・委託解除後、間もないことも踏まえる必要がありますが、半数以上(54.2%)が数か月の中で定期的に連絡を取っていることが分かりました。

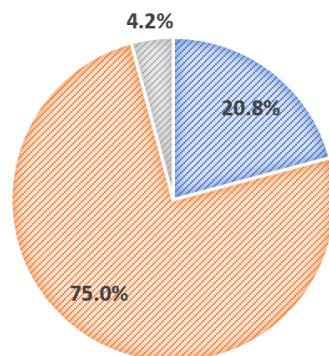
新型コロナの影響 (n=24)		割合
減った	7	29.2%
変わらない	15	62.5%
増えた	1	4.2%
無回答	1	4.2%
合計	24	100.0%



新型コロナウイルス感染拡大による連絡頻度の影響について、15人(62.5%)が「変わらない」と回答した一方で、7人(29.2%)が「減った」と回答しました。本人票でも同じ質問をして31.1%が「減った」と回答しており、新型コロナウイルス感染拡大によって連絡頻度が増えた人は本人・保護者ともにほとんどいないことを考察することができます。

②施設・里親を退所したあと、あすのばの給付金と、国民全員に配布された給付金(10万円)以外に利用した支援はあるか

家庭復帰してから利用した支援 (n=24)		割合
利用したことがある	5	20.8%
利用したことがない	18	75.0%
無回答	1	4.2%
合計	24	100.0%



■ 利用したことがある ■ 利用したことがない ■ 無回答

回答者のうち4世帯中3世帯(75.0%)は、支援を利用したことが「ない」と回答しました。「ある」と回答した人は5世帯(20.8%)で、どのような支援を利用したかについてもうかがい、「高等学校等就学支援金」、「高校生等奨学給付金」、「就学援助」など公的支援制度があげられました。

「ない」と回答した人には、その理由をうかがい、10世帯(55.6%)が「利用したかったが、利用できなかった」と回答しました。利用できなかった理由もうかがい、「利用できる支援を知らな

支援を利用しなかった理由 (n=18)		割合
利用したいと思ったことがない	2	11.1%
利用したかったが、利用できなかった	10	55.6%
無回答	6	33.3%
合計	18	100.0%

かった」(60.0%)が最も高く、次に「条件を満たしていなかった」(30.0%)、「利用の仕方が分からなかった」(同30.0%)が高い結果でした。「その他」には、「生活保護世帯だから」があげられました。

利用できなかった理由 (複数回答 n=10)		割合
条件を満たしていなかった	3	30.0%
利用しようとしたが使いづかった	0	0.0%
利用の仕方が分からなかった	3	30.0%
利用できる支援自体を知らなかった	6	60.0%
利用できる支援自体がなかった・見つからなかった	2	20.0%
その他	1	10.0%

そして、「ない」と回答した人には、どのような改善があれば、利用したい・利用しやすくなると思うかについてもうかがい、主な意見は以下の通りです。

- ・前もってわかっていると利用しやすいと思う。
- ・生活保護世帯でも収入に換算されなければ、とても助かると思います。
- ・困っている人を困っていない人というあつかいをされた。自殺や無理心中は無くならないと思う。
- ・どのような物があるのか知りたかった。
- ・色々教えてくれればだと思えます。今回のはまず給付金自体知らなかった。
- ・お給料は変わらなくてもコロナで子どもたちが自宅に長期間いたことで、食費などのエンゲル係数が増えてとても困りました。

支援の利用方法 (n=24)		割合
オンラインの方が利用しづらい	12	50.0%
オンライン以外の方が利用しづらい	6	25.0%
無回答	6	25.0%
合計	24	100.0%

なお、支援の利用方法についても質問し、半数にあたる 12 人 (50.0%) が「オンライン(パソコンやスマートフォンを使うなど)の方が利用しづらい」と回答しました。

それぞれの理由について、主な意見は以下の通りです。

<オンラインの方が利用しづらい理由>

- ・スマホやパソコンと言う機械が使いきれないから。
- ・マニュアルを見ても、わかりにくい事とまだ複雑であるため
- ・ネットが使えない
- ・内容的に難しいならと利用しづらい
- ・電磁波過敏症だから
- ・よくわからない
- ・あまりやり方がわからないから。慣れば大丈夫ですが。
- ・見えづらい

<オンライン以外の方が利用しづらい理由>

- ・場所や時間が限られるから。時間や手間もかかるため。
- ・用紙に記入するのもわかりやすい見本が必要だと思う。
- ・期間が長い。ポストへ行く手間がある。
- ・手続きのために、改めて時間を作らなければならない。
- ・手続きに行く暇がない

③自由記述（どのような支援があると助かるか）

どのような経済面の支援・制度、また、どのような経済面以外の支援・制度があると助かるかについてもうかがいました。現在しんどいと感じている、困っている、解決してほしいことなど含めて自由にご記入いただきました。

- ・高校生2人居ますが、高校での徴収金2人分は少し厳しいです。また、区のほうから利用できる制度が、8月末まで全く知らずに自治体独自の手当もあるのも知らず、約半年分もらえず制度自体きちんと教えて頂けない、役所仕事だと痛感しました。こちら側しか手続きを知らなければいけない現状に憤りを感じました。生活保護なので高校の授業料は免除ですが、徴収金は自己負担なので厳しいです。
- ・給付金もらってるけど色々と学校のために使うと足りないから値段を高くしてほしい。
- ・生活保護や手当をいただいているので、それだけでもとても助かっていますが、やはり成長期の子供3人をひとり親で養うのはともしんどいです。児童相談所や他団体にもお世話になっていますが、母子家庭で、思春期の息子は同性の相談相手や遊べる相手を求めているようです。来年、息子は高校受験ですが、現在不登校なのと、私の収入や保護費で入学させてあげられるかとても不安です。児童養護施設では大変お世話になりましたが、今でもトラウマになっており、児童相談所でトラウマケアを受けています。私も幼少期の虐待が原因で子どもたちにしてきた、間違っしたしつけを反省しながら、自分のトラウマを治療中です。自分に対してなかなか自信を持たず、戸惑う日々です。子どものためにあったらいいなと思う支援は、学校では受けられない体験をさせてあげたいです。
- ・生活もある中で、食費が大きく毎月の出費が大きい。さらに、高校の修学旅行等の出費も大きく子供には不自由をかけざる事がある。また、職に就くときも自動車免許が必要で取りに行かせられないので職が見つかりにくい。ローンではなく、何か良い方法が知りたいです。
- ・うちの子2人は、ADHD、ASDの個性があるので、知育教材や学習教材など本人に合ったものを見つけるまでに色々試したいのですが、お金に余裕がないためなかなか用意することができません。病院などへの通院の際の出費なども大変なので、生活費全般とした支援などありましたら、とても助かります。発達障害児の支援、制度など、今後進んでいったらいいなと思います。近年耳にする方も増えてきたことと思いますが、やはりなかなか理解されず、入学早々に普通級に在籍させないでほしい等、心苦しいことがありました。どうか、お子さん一人一人が安全に健全に成長できますようにご支援のほど、よろしく申し上げます。
- ・例えば、電気料金やガス料金や水道料金など生活に必要な部分を割引制度などあれば経済的に助かると思う。色々な支援や制度をもっと使えるよう条件を下げしてほしい。新型コロナの影響で仕事にも影響があり色々な事にストレスを感じています。1人でも困っている人に手をさしのべていただけたら良いと思います。
- ・DVの避難できるシェルター
- ・子どもが多い家庭は中学以降ますますお金がかかり進学の面でもだいぶ我慢させてしまい、

その分親が働こうと思いますが、体力にも時間にも限界があり、大変です。

- ・経済面で家庭の事情もあり辛い時もあります。子供に障害があるのか？理解しづらく、お金を稼ぐことより、要求がすごいので困る時が多々ある。
- ・特にぜいたく品の物を買う事はせず食品に関しても割引き、半額等の品物を努力して購入していますが、子ども3人（中学～高校）小学生の時より明らかに食べる量は増え、また、日配品（トイレットペーパー、衛生用品、シャンプー、リンスなど）は特に使用量が多く目に見える形でなくなります。生活費（必要な物）は、20才までの子どもがいる世帯に学ぶ事が安心して出来るような支援制度があれば、親子が安心出来る毎日を過ごせると思います。

④自由記述（あすのばの給付金で改善してほしいこと、取り組んでほしいこと）

最後に、あすのばの給付金で改善してほしい、あすのばに取り組んでほしいことも自由にご記入いただきました。

- ・学校に行く維持費が多いため、給付金と払うお金が釣り合っていない！給付金の金額があがってほしい。
- ・在宅で仕事しているので、一応は収入がありますが、やはり、ひとり親で息子は不登校ですと家におり、次女は小学一年生でまだ手がかかるため、できれば給付金あと100万円は必要だと思います。分割でもいいので、毎月入ったらとても助かります。
- ・年払いの追加の学費が未だ支払えていない。生活もギリギリで。余裕もなく居住先の役所へ相談するも支援が未定。
- ・あすのばにはとても感謝しています。ありがとうございました。
- ・ないです。
- ・里親さんとのご縁があり子供とも離れていた日々の事を思い出しました。息子の通帳に給付金などとともに今年里親さんから離れ、帰ってきました。兄の影響もあり「バイクに乗りたい」と常々話しは聞いていました。あすのばさんの給付金で原付免許、バイク購入することができました。バイトも始まり学校とバイトの両立ができればと思います。
- ・今のままでもいいと思います。

以上

アンケートの回答まで至らなかった人たちを含め、あすのばと給付金をきっかけにつながってくださり、そして貴重な声や想いを教えてください、本当にありがとうございました。新型コロナウイルス感染拡大の影響などで予定していたヒアリングまで実施できておらず、さらに具体的に実態を捉えて対策や支援へつなげていくことは今後の課題とします。また、アンケートの実施へ向けて検討・準備のためご協力いただいた皆さまにも改めて心からの御礼を申し上げます。

2022年3月

公益財団法人あすのば